

特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター

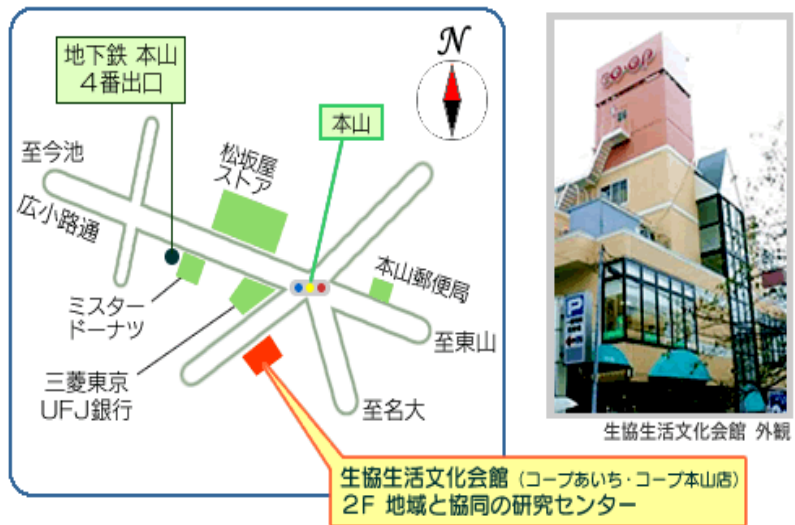
2013年度通常総会(第13回)

下記の通り、2013年度通常総会を開催します。

- 日時 2013年5月30日(木) 総会 10時30分～12時15分
- 会場 生協生活文化会館4階ホール
- 議題 第1号議案 2012年度事業報告と決算承認の件
 第2号議案 2013年度事業計画と予算決定の件
 第3号議案 役員の一部補欠選出の件

＜会場への交通＞

地下鉄東山線 本山駅下車
4番出口より徒歩2分

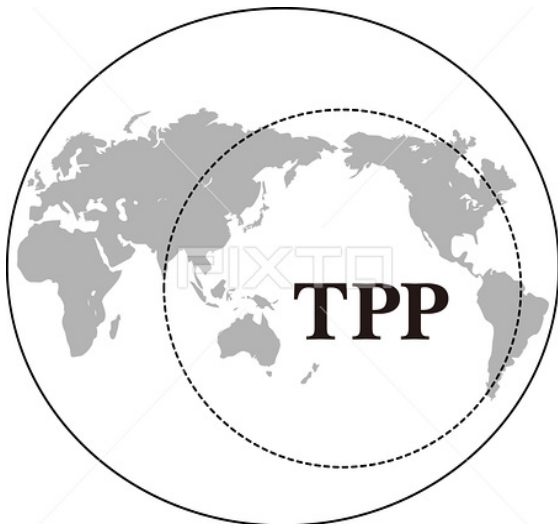


2013年度総会記念シンポジウム「TPP交渉参加と今後の動向」

○日時：2013年5月30日(木) 13時～15時30分

○講演：「TPPと私たちの暮らし」

講師：農林中金総合研究所顧問特任研究員 行友 弥 (よしかず) 氏
2012年6月まで毎日新聞経済部編集委員として農林水産業を取材されてきました。



私たちの暮らしに大きく関わってくるだろう問題にTPP(環太平洋連携協定)があります。農業だけでなく、食の安全、医療、保険、労働環境など、生活全般に影響してくると言われるTPPについて、今後の状況も踏まえ、どのようなものであるか、あらためて考え合ひましょう。

農林中金総合研究所顧問特任研究員の行友氏から、TPPについて、状況もふまえながらお話いただき、弁護士の方や、協同組合からご報告いただいて、参加者で考え合ひていきます。

ぜひご参加ください。

第1号議案 2012年度事業報告と決算承認の件

I 2012年度活動で目標としたこと

2012年度は、国際協同組合年として、地域と協同の研究センターに求められる役割を認識し、「2011年度の取り組みの中で確認し合った協同と協同組合の価値について、多くの協同組合、協同を基礎にする諸団体と一緒に確かめ合い、深め合う」ことを目標に、「場づくりに、外部にもアピールしながら、取り組む」計画をすすめてきました。2012年度を振り返ると、求められる研究センターの役割を、一つひとつ具体化してきた年度であったと考えます。こうした活動の中で、地域と協同の研究センターを支える会員数の増も一つの目標としてきましたが、充分に進めることができず、これからの課題となりました。

特に、2012年度は、下記の4点を重点として取り組みました。

- ①国際協同組合年を迎える年度として、多数の協同を基礎とする組織や協同組合の参加で、交流し、その価値を深め、役割を考え、あり方を探り合う場をつくります。そのために、多くの協同組合、協同を基礎とする組織と一緒に協同組合を考え合い、アピールする催しを総会記念シンポジウムや第9回東海交流フォーラムの中で具体化しながら、多くの協同組合の取り組みをつなげていきます。
- ②地域から時々地域と協同の研究センターに求められる役割を発揮する仕組みを探求していきます。またその具体化として研究センターとしての主催事業を探求します。そのために、会員（個人会員・団体会員の構成メンバー）の参加で、地域と協同の研究センターの会員であることのメリットが実感できる場づくりをすすめていきます。
- ③協同と協同組合を支える人づくりの場として「協同の未来塾」の開講をめざしながら、必要とされる人づくりにつながる場を探求します。そのために、次年度開講できるように、「協同の未来塾」の企画委員会をつくり準備していきます。
- ④国際協同組合年の取り組みと「記念誌」の発行で、地域と協同の研究センターの成果の蓄積を発行物でまとめるようにし、より多くの方々と共有し合えるようにします。研究センターの発行物で、会員であることの利点を実感できる情報発信があることを目指し、編集委員会をつくり検討していきます。

この4つの重点に対し、下記のような成果と課題が生まれました。

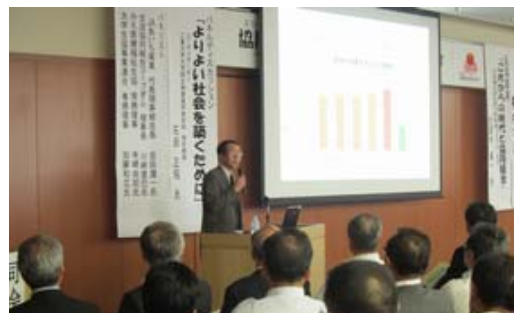
- ①7月7日（土）2012国際協同組合年・記念シンポジウムin岐阜・愛知・三重～協同組合が よりよい社会を築きます～を東海の協同組合と一緒に研究センターも主催者の一員として記念のシンポジウムを開催しました。第9回東海交流フォーラムでは、「協同がよりよい社会を築きます！」をテーマに、記念シンポジウムでつながった協同組合の多彩な取り組みについて交流しました。
- ②三河地域、三重地域での取り組みを継続しながら、岐阜地域での懇談会を実現し、世話人会で相談し、岐阜のつどいを3回開催するなど、身近な地域での協同・地域づくりの取り組みについて知らせ合い、学び合う場をつくりました。
- ③あいち・ぎふ・みえの3生協が参加して準備する場をつくり、2014年度開講に向け検討を始め、地域と協同の研究センターの核になる取り組みとしてしっかり準備していければと相談してきました。
- ④ホームページの改善・フェイスブックの団体ページの立ち上げ・研究センターNEWSの編集見直し等試行錯誤しながら情報発信の改善を進め、発信する情報に触れる人の輪を広げてきました。編集委員会は2013年度立ち上げる相談をすすめてきました。

II 2012年度事業のまとめ

1. 協同組合運動の理念・役割・あり方の探究

2012年度、生協の（未来の）あり方研究会では、研究成果を出版物にまとめる準備をすすめ、形になるところまで準備しました。また2012国際協同組合年にふさわしく、東海三県の協同組合が一緒になって記念シンポジウムを開催できるよう地域と協同の研究センターとして支援し、第9回東海交流フォーラムでは、多彩な協同を基礎にした団体や協同組合の実践交流を行いました。

2012国際協同組合年記念シンポジウム



(1) 生協の(未来の)あり方研究会

9回の研究会を重ね、2013年6月に成果を発刊する目処を立てることができました。発刊後には研究集会を持って、議論する場をつくっていく相談をしてきました。

(2) 2012国際協同組合年記念シンポジウム in 岐阜・愛知・三重

東海(岐阜・愛知・三重)のJAと生協が中心となり、多彩な協同組合の協力で2012国際協同組合年記念シンポジウムを開催することができました。(参加300名)

講演:「これからの時代と協同組合」生源寺眞一氏
(名古屋大学大学院生命農学研究科教授・全国実行委員会副代表)

パネルディスカッション:「よりよい社会を築くために」

4人のパネリストより、各分野の協同組合の取り組み報告

- ①JAあいち尾東代表理事組合長 吉田濱一氏
- ②生活協同組合コープぎふ理事長 川崎直巳氏
- ③みえ医療福祉生協 常務理事 寺崎由郎氏
- ④大学生協東海事業連合専務理事 加藤和広氏

(3) 第9回東海交流フォーラム

2012国際協同組合年記念シンポジウムを契機として、多彩な協同と協同組合の実践について、交流を目的に、第9回東海交流フォーラムを開催しました。(参加102名)

テーマ:「協同がよりよい社会を築きます!」

～協同の目的を深め合い、よりよい社会とくらしづくりを目指した実践を学ぶ～

日時・会場:2013年2月23日(土) 10:30~15:30 ウィンクあいち 5階 小ホール1

		参加
問題提起	日本が今直面する現実! ~全般的な生活の危機、生命の危機にある今の社会~ 講師:高橋正氏	102名
実践交流	「地域でのよりよい社会とくらしづくりを目指した協同の実践」 ①大学生の食と健康を支える大学生協の取り組み(全国大学生協連 東海ブロック) ②ささえあい たすけあい 地域だんらん まちづくり(南医療生協) ③配送センターと福祉グループとの連携で取り組んでいること(コープあいち) ④コープみえの高齢者利用支援の取り組みのその後(コープみえ) ⑤コープぎふの「おしゃべりパーティー」でつくっている場づくりの取り組み(コープぎふ) ⑥南医療生協子育て支援のとりくみ「ママクルフェスティバル」「赤ちゃん同窓会」(南医療生協) ⑦地域でのくらしを支え続ける池内福祉会の取り組み(社会福祉法人池内福祉会) ⑧奥三河地域で農協が取り組む地域支え合い事業の取り組み(JA愛知東)	

第9回東海交流フォーラム



《第9回東海交流フォーラムの感想から》

「今日参加してとても良かったです。『おたがいさまひだ』でも取り組みそうな事は進めていきたいと思えます。丹下さんの質問に対する答えを聞き、問題点の答えをいただいた気がして楽になりました。」
「印象に残ったのは午前・午後の南医療生協のスライドです。たくさんの方が生き生きとしている様子がたくさんありました。そこに私たちが考えなければならない課題のヒントがあるように感じました。」
「いろんな分野で協同しながら助け合い支え合いながら人間らしく生き、住み続けられる地域をめざして頑張っている人がいることにうれしく思いました。一歩足を出すこと、仲間をつくること、勇気をもらいました。」

(4) 社会で課題になっていることに対して

TPP問題、今後のエネルギー問題など継続して考え合う場をつくってきました。コープあいち、アジア・ボランティアネットワーク東海と共催で韓国iCOOP生協との学習交流会を開催しました。

2. 協同の主体づくり・担い手づくりと学びと気づきの支援

学びと気づきの場づくり支援では、各生協の要請に応じてきました。また地域と協同の研究センター主催で、第4期共同購入事業マイスターコース、組合員理事ゼミナールを実施し、「協同の未来塾」を準備する相談を始めました。

(1) 各生協での職員を中心とした学びと気づきの場づくり支援

各生協の要請に応え、学びと気づきの場づくり支援に取り組んできました。

2012年度支援を実施した生協には、①コープあいち（組合員の願いに寄り添うマネジメントゼミナール、センター長ゼミナール）②東海コープ事業連合（商品部MDゼミナール）、③コープあおもり、④社会福祉法人「協同福祉会」あすなら苑、⑤京都生協、⑥エフコープ、⑦パルシステム、⑧コープ九州事業連合などでの支所長や店長のゼミナール、自己発見塾等があります。支援により職員の変化、事業実績での変化の報告があります。

2013年度も引き続き支援要請があり、計画を相談してきました。

(2) 共同購入事業マイスターコースの開催

2012年度、第4期「共同購入事業マイスターコース」を開講し、東海の3生協、委託業者（トランコムDS株式会社、株式会社アシスト）から24名の参加がありました。第1単元から第7単元まで、企画委員を中心に開講し、2013年2月17日（日）の修了式では、一人ひとりにマイスターバッジと修了証が、代表理事より手渡されました。2013年1月13日（日）には、第3期の受講生を対象に、実践交流会を開催しました。また「共同購入事業マイスターコース」は4年の期間プロジェクトとして開講してきたため2013年度以降についてどうするか相談し、内容を見直し、より進化させた内容で開講することを検討してきました。

参加者の感想から

「この共同購入マイスターコースで、自分の仕事のあり方、生協の存在価値など深く考えることができました。配達の現場にでると、基本的に一人の世界なので、他の担当者がどんな仕事をしているか聞くことができ、自分の考え、視野が非常に大きくなった研修になりました。」

「改めて振り返ってみると、いつもの業務では、日々の配達時間、課題におわれて仕事をこなしていたというのが、正直な実感です。マイスターコースを受講させていただいて、色々な角度から生協を知ることができました。」

第4期マイスターコース修了式



(3) 組合員理事ゼミナールの開講

東海の3生協から、コープぎふ、コープあいち、コープみえの新任組合員理事16人を対象に、世話人会で相談して、組合員理事ゼミナールを、2012年度と2013年度の2年間で9回の単元を計画し、その内、2012年度は4回の単元を開講しました。

第3回の参加者ふりかえりから

「未来の生協をたくさん思い描いてみましたが、夢はあれど、目の前の現実の厳しさに風船がしぼんでしまったような気がしました。しかし、生協の未来を私は信じたいし、可能性も追求していきたいと思いました。」

第4回の参加者ふりかえりから

「ワークでは、グループの皆さんの意見を聞くことで発見や、『なるほど!』と思う事、『こうすればいいんだ!』といった事が聞け、これからの活動に役立てていきたいと思いました。」

(4) 協同の未来塾

コープぎふ、コープあいち、コープみえ、東海コープ事業連合が参加し、研究者にも協力いただいて企画委員会を9月から2013年3月までに4回開催しました。そこで相談し、2014年度の開講に向け、準備をすすめています。

3. 協同で支える領域別テーマごとの交流・地域での交流

(1) 4つの領域でのパネル

①食と農（食をささえる地域農業と食育）パネル

継続できる農業のあり方を調査することを目的に、9月24日げんきの郷の調査活動を行いました。2013年1月25日にはピーマンの生産者近藤園芸の調査活動を行いました。

日程	企画	内容
9月24日	げんきの郷 見学調査会	シニア野菜ソムリエ高木幹夫さんより運営の状況や農業に関わって考えておられることとお聞きし、農産物の直売所など見学しました。 (参加14名)
1月25日	近藤園芸 見学調査会	継続できる農業を調査することを目的に、稲沢市の近藤園芸を見学しました。栽培されているピーマンの施設園芸の概要、努力されていること等について聞かせていただき、畑を見学させていただきました。(参加8名)

②環境（自然の環 人の輪）パネル

東海の3生協で取り組んでいる環境活動について、それぞれの生協から職員が参加し、情報交流を重ねてきました。11月3日に3生協共同で「多度のイヌナシ保全活動と長良川河口堰見学」に取り組み、2013年4月には、そのイヌナシの花見学と、保全活動をもう一度計画しました。

日程	企画	内容
11月3日	『多度のイヌナシ 自生地』保全活動と 『長良川河口堰』見 学	午前は桑名市にある天然記念物の「イヌナシ」保全活動に取り組み、下学習と草刈り等実生保護の作業をしました。午後は長良川「アクアプラザながら」を見学し、「水の大切さとくらしと川」について学習し、長良川河口堰の利点や問題点について学びました。(参加29名)
3月11日	「食品残渣の肥料」 学習	世話人会で、食品残渣の肥料の取り組みについて、バイオプラザなごやの代表取締役村平氏のお話を聞きました。(参加10名)

③食と農・環境パネル 合同

「原発事故と私たちのくらし」をテーマに食と農・環境パネル合同で第3回学習交流会「原発に頼らないくらしの見直しを！」を、高野雅夫先生を講師に開催しました。

また関連した内容の情報収集に努め、発信し合い、今後のエネルギー問題に関して情報を蓄積してきました。

日程	企画	内容
4月19日	「太陽光発電で暮らし方を考える」学習会	野原敏雄先生を講師に、太陽光発電所ネットワーク活動について紹介いただき、太陽光発電について学び合う場を持ちました。(参加15名)
8月9日	第3回「原発事故と私たちのくらし」学習交流会～原発に頼らないくらしの見直しを～	名古屋大学大学院環境学研究科准教授高野雅夫先生を講師に、福島の現状、2030年・50年のエネルギービジョン、千年持続可能な社会、小水力発電による30Wでの暮らし、田舎暮らしを選択する事例等を講演いただきました。講演の後、8つのグループに分かれてワークを行い、くらしや地域で工夫したいことや、これからのエネルギーについて考え合いました。(参加69名)

④地域福祉を支える市民協同 パネル

世話人会を7回開催し、座談会1「地縁組織の視点から地域福祉を考える」、座談会2「志縁組織の視点から地域福祉を考える」、座談会3「生協組織のつながりに着目して」等を実施して、地域福祉を支える市民協同について探究してきました。また、その内容を簡易な冊子にして発行し、ニュースレターも2回発行しました。

日程	企画	内容・テーマ
4月14日	公開世話人会	「コープしまねのおたがいさま」と報告書「班」のある風景に組合員のくらしとむすびつきを探るーゆるやかに、息長くつながって、支えあって

		講師：大木隆之氏（生活協同組合しまね常務理事）（参加21名）
6月9日	座談会その1「地縁組織の視点から地域福祉を考える」	①名張市における「名張ゆめづくり予算制度」（地域ビジョン）②本庄（小牧市）における「地域をつなぐまちづくり」③住民自治が織りなす豊かなコミュニティの創造～無縁社会から有縁社会への紡ぎなおし～④三重紀南地域での「すぎママの会」活動
8月30日	座談会その2「志縁組織の視点から地域福祉を考える」	①社会的引きこもり支援②子育て支援③協同労働④有償のたすけあい活動
10月26日	座談会その3「生協組織のつながりに着目して」	①地域における支えあい事業②瀬戸の福祉まちづくり③ローカルな市民活動を支える仕組み～担い手に着目して～④南医療生協の地域ささえあい事業
12月6日	座談会その3「生協組織のつながりに着目して その2」	「安心して住み続けられるまちづくりの会」の「虹の喫茶」の取り組みを中心にして

⑤研究フォーラム職員の仕事を考える

「私のくらしの中の生協商品」をテーマに、「生協職員の仕事を語る会」を組合員がおしゃべりする会として第7回9月9日（日）に、第8回3月10日（日）に開催しました。また、労働組合との懇談会を、7月8日（日）にコープぎふ労組と、1月12日（土）にコープみえ労組と開催しました。

第7回生協職員の仕事を語る会



日程	企画	内容
7月8日	コープぎふ労組との懇談会	コープぎふ労組のみなさんと、職員の仕事に関わって、現場で働く職員の声を一番聞いている労働組合がどのように考えているか、現場でどんな事が起こっているか聞き、交流しました。
9月9日	第7回生協職員の仕事を語る会	コープぎふ、コープあいち、コープみえの3生協から5人の組合員さんに参加いただき、共同購入事業に関わってどんなことを感じているか、職員の仕事をどのように思っているか、おしゃべりの中でお話いただき、聞かせていただきました。（参加20名）
1月12日	コープみえ労組との懇談会	コープみえ労組のみなさんと、地域担当者の仕事に関わって意見交しました。
3月10日	第8回生協職員の仕事を語る会	コープぎふ、コープあいち、コープみえの3生協から4人の組合員さんに参加いただき、商品とくらし、職員の仕事に関わって、おしゃべりの中でお話いただき、聞かせていただきました。（参加18名）

第7回生協職員の仕事を語る会 ゲストの感想から

『普段、あたりまえに利用している生協に対して、色々な話、他地区の方との交流ができ、貴重な時間でした。クレームに対する自分たちの思い、今後の対応など自分なりに考えさせてもらいました。もっと関わりをもてる余裕が、職員さんにも私たちの側にもあるといいなと思います。』

(2) 地域懇談会

①三河地域懇談会

第9回三河地域懇談会は「東日本大震災を教訓に…いざという時どうする?!」をテーマに開催しました。「災害の時代を生き抜くカー海からの提言」と題し、青木伸一先生に基調講演をしていただき、その後、蒲郡市の防災計画や、コープあいちの東北支援の取り組みについて、4人の方から報告をいただき、「東日本大震災を教訓に、いざというとき どうするか?!」について分散会で考え合い、語り合いました。

第9回三河地域懇談会



日程	企画	内容
9月29日 ～30日	第9回三河地域懇談会	東北支援について学び、考え、今後の地域での暮らしに生かしていくことを目的に、「知ろう・学ぼう・考えよう 明日の地域・暮らし・つながり」をテーマにして9月29日(土)30日(日)に第9回三河地域懇談会を蒲郡商工会議所・コンベンションホールにて開催しました。基調講演を「災害の時代を生き抜く力 一海からの提言」をテーマに青木伸一先生(大阪大学教授)に行っていただき、蒲郡市安全安心課からの報告、復興支援ツアー参加者からの報告など4件の報告をいただきました。その後分散会で学び合ったことを交流しました。翌日は佐久島の調査活動を予定していましたが、台風のため朝一番の舟で帰ってきました。(参加48名)

②三重のつどい

2012年3月24日に三重のつどいを開催し、その後相談会を重ねながら、元気に取り組みされている地域おこしの事例調査を目的として、2013年1月15日に「せいわの里まめや」「水土里ネット立梅用小水力発電プロジェクト」の見学を行いました。また二ヶ月に一度研究者や生協の組合員・職員が集まり、自由に交流するサロンの開催を検討してきました。

日程	企画	内容
1月15日	「せいわの里まめや」「水土里ネット立梅用小水力発電プロジェクト」に学ぶ	三重地域の見学・調査活動に取り組みました。「せいわの里まめや」を通じて取り組まれている地域振興の取り組みを学び、「水土里ネット立梅用小水力発電プロジェクト」の取り組みでは、小水力発電の取り組みや地域の産物づくりの取り組みを学びました。(参加25名)

③岐阜地域懇談会

地域の実践事例の調査を目的に、4月に「あぼ兄の農小を訪ねて」をテーマに椈の湖農業小学校を見学させていただき、8月には町づくりと今後のエネルギーをテーマに「小水力発電の石徹白」の調査を行いました。12月にはラーニングアーバー横蔵(有)樹庵の実践を学びました。次回に向け、和良地域のシンポジウムに参加し、町づくりの取り組みを学びました。



小水力発電

日程	企画	内容
4月18日	あぼ兄の農小を訪ねて	椈の湖農業小学校を訪ねて、農業のすばらしさ楽しさを次世代の子どもたちに伝えるみなさんとの交流をすすめました。(参加13名)
8月18日	石徹白の小水力発電と地域再生	小水力発電見学・交流会を行いました。小水力発電の発電システムをじかに見たり、地域再生のお話を聞き、地元のNPO法人で活動する平野さん、久保田さん等沢山のひとたちと熱く交流しました。(参加28名)
12月8日	ぎふいび生活楽校へ行こう	平成15年、横蔵小学校が閉校されるにあたり、「せっかくの文化施設を廃屋として朽ち果てさせず、文化の火を灯し続けられないか」とスタートしたラーニングアーバー横蔵とそれを運営する樹庵では、地域の中で自立生きる力を持つ子供たちを育てるために様々な活動が行われていました。(参加11名)

④安心して暮らせるネットワークのつどいへの参加(尾張地域懇談会に関連して)

引き続き「安心して暮らせるネットワークのつどい」相談会に参加してきました。また、コープあいち、東海コープ事業連合商品安全検査センター、愛知県・名古屋市等で開催している残留農薬検査結果などのリスクコミュニケーション情報交換会に、地域と協同の研究センターとして参加しました。

4. 会員による多様な研究センター活動の支援

①ものづくりの思いを語る会の支援

ものづくりの思いを語る会では、2002年度より、生協関係者と生協に関わる生産者・メーカーの代表等が集まり、経験を生かし合い、本音でものづくりへの思いを語りあってきました。2012年度には、第25回ものづくりの思いを語る会が開催され、会員が事業で困っていることを紹介し、その対策についてグループで考え合い、交流しました。

②くらしを語りあう会の支援

2011年度文集「新しい日常へー3・11後のくらし」をまとめたメンバーが呼びかけ、「みんなが気軽にくらしの中で、気づいたことをおしゃべり、発信する」場として、会員が自主的に「くらしを語りあう会」をつくってきました。2012年度は6回のくらしを語り合う会を開催し、会員の自主的な活動として継続して会を持ってきました。ニュースも発行して話し合ったことを発信しています。

③コープあいちの委員会支援

前年に引き続きコープあいちの福祉に関する委員会支援の要請があり、受託しました。

④第三期研究奨励助成の実施

会員の自主的な研究活動に関わって助成する第三期研究奨励助成を実施しました。募集に対し6件の応募があり、理事会の下に第三期研究奨励助成支援委員会をつくり助成について検討し、12月の理事会で助成を決定しました。2013年1月よりそれぞれの研究活動が始まっています。2014年1月に研究の内容について報告をいただく予定です。

⑤コープあいち「地域における支え合い事業」の支援

2012年度はコープあいちと愛知県の協働によるモデル事業「地域における支え合い事業」が行われました。その「地域会議」と「全体会」に地域と協同の研究センターとして参加しました。また、研究者会員が、住民の支え合いニーズの調査を行い、支え合い事業の公開企画のコーディネーターを務め、報告書作成に関わりました。

5. 協同に関わる情報の蓄積と社会的発信

研究センターの情報共有と発信改善の具体化として、これまでの「研究センターNEWS」を見直し、テーマを持った「NEWS増刊号（仮称）」の発行を目指すように編集委員会で検討を進める相談をしてきました。また研究センターホームページは、写真を使って活動レポートを掲載するように改善し、研究センターのFACEBOOKのページを開設して、企画の案内や活動報告を速報で発信するようにしました。今後、会員の投稿や情報の発信、研究成果の交流を行う等も行うことができるように改善していきます。

6. 研究センターの組織強化

会員加入について、個人正会員120人、個人賛助会員20人、団体正会員5団体の増加を目標としました。そのために研究センターを紹介できるようリーフレットを作成して、会員を通じ配布し、また、団体会員の職員等に入会の呼びかけを行いました。しかし、目標とした会員数には届きませんでした。

7. 研究センターNEWS（ニュース各号の主な記事）

	巻頭	パネル発・地域発・会員発の発信
101号 2012/4/26	新しい「暮らし」像を求めて 中京大学准教授・研究センター理事： 小木曾洋司	特集 協同っていいかも いきいき笑顔がいっぱい!! 生協の組合員理事ゼミナールを開催しました 第6回生協職員の仕事を語る会開催レポート

102号 2012/6/26	認知症を地域で支える(プライベートネットワーク論考) 元津医療生協職員・三重短大非常勤講師 中道和久	国際協同組合年記念企画 三重のつどい 「きたるべき災害に備えて、私たちがなすべき事とは」開催 第1回岐阜のつどい 岐阜を知ろう!つなごう!「あぼ兄(に)イの農小を訪ねて」報告 特集 協同っていいかも No.3
103号 2012/8/26	よりよい社会づくりへ、新しい協同(協同組合自身の多様な協働)の道を専務理事 向井忍	国際協同組合年記念・記念シンポジウム in 岐阜・愛知・三重 -協同組合がよりよい社会を築きます- ダイジェスト版報告
104号 2012/10/26	くらしを語りあう会でのおしゃべり 愛知書房・研究センター食と農パネル世話人 田中義二	第3回「原発事故と私たちのくらし」連続学習交流会『原発に頼らない くらしの見直しを』 私のくらしの中の生協商品2～第7回生協職員の仕事を語る会 第2回岐阜のつどい 石徹白の小水力発電と地域再生
105号 2012/12/26	TPPと三重県の農業 農業・農協問題研究所三重支部・研究センター理事 早川 喬	第9回三河地域懇談会東日本大震災を教訓に・・・いざというときどうする?! 知ろう・学ぼう・考えよう 明日の地域・くらし・つながり 報告『多度のイヌナシ生地』保全活動と『長良川河口堰』見学会員交流の広場 1
106号 2013/2/26	東日本大震災から2年 特定非営利活動法人 レスキューストックヤード代表理事 栗田暢之	2012 地域福祉を支える市民協同パネルとは・・・ 報告 第3回岐阜のつどい報告 ぎふいび生活楽校へ行こう 報告 共同購入事業マイスターコース第3期生実践交流会 報告 会員交流の広場 2

Ⅲ 組織・機関運営のまとめ

1. 第12回通常総会を、2012年7月7日(土)に、JAあいちビル14階大会議室で開催しました。出席状況は、次の通りでした。

	出席者	実出席	委任	書面表決	会員数
個人会員	167	74	1	92	235
団体会員	15	5	0	10	17
合計	182	79	1	102	252

各議案の採決結果は下表の通りでした。

過半数の賛成で、2011年度事業報告と決算承認の件(第1号議案)は承認され、2012年度事業計画と予算決定の件(第2号議案)は過半数の賛成で提案通り決定されました。第3号議案理事・監事の選出及び顧問委嘱承認の件は、理事会からの推薦者35名の理事の立候補と、2名の監事の立候補があり、投票の結果、過半数の信任をもって選出されました。

<議案毎の採決結果>

	議案	賛成	反対	保留
第1号議案	2011年度事業報告と決算承認の件	174	0	0
第2号議案	2012年度事業計画と予算決定の件	173	0	1

第12回総会



2. 理事会の開催

2012年度、下表の通り理事会を開催しました。

	回数	開催日	主な議題
11年度	第6回	5月19日(土)	第12回総会議案書について、第12回総会の運営について、改正NPO法にもとづく登記申請について、記念シンポジウムについて
	臨時	7月7日(土)	理事・監事候補者について
2012年度	第1回	7月7日(土)	2012年度の役員体制について、2012年度の理事会開催日程について
	第2回	7月26日(木)	第12回定期総会の振り返り、記念シンポジウムの振り返り、第9回東海交流フォーラムの準備、第3期研究奨励助成について等
	第3回	10月8日(月)	第9回東海交流フォーラムについて、研究センターの組織づくり、2013年度総会開催までのスケジュールについて、
	第4回	12月22日(土)	第9回東海交流フォーラムについて、研究センターの組織づくり、2012年度活動の振り返り、第三期研究奨励助成の実施について
	第5回	1月26日(土)	第9回東海交流フォーラムについて、研究センターの組織づくり、2012年度の振り返り、2013年度計画と次期中期目標に関わって
	第6回	3月16日(土)	第9回東海交流フォーラムのまとめ、研究センターの組織づくり、総会議案書について、総会記念シンポジウムについて

常任理事会は、2012年度、次の通り開催しました。

2011年度第10回4月2日、第11回5月11日、第12回6月27日、
 2012年度第1回7月13日、第2回8月9日、第3回9月7日、第4回10月4日、第5回11月23日、
 第6回12月12日、第7回1月11日、第8回2月4日、第9回3月8日、計12回開催しました。

3. 会員組織

会員の異動は次の通りです。2012年度末の会員数は、正会員個人244人・団体17団体、賛助会員個人93人・団体2団体となりました。(2013年3月20日現在)

	正会員		賛助会員	
	個人	団体	個人	団体
期首会員	232	16	84	2
加入	26	2	8	0
退会	▲10	0	▲3	0
移行	▲4	0	4	0
期末会員	244	18	93	2

4. 法人としての行政への対応など

- ① 特定非営利活動促進法に基づき、2011年度事業報告書を名古屋市に提出しました。(2012/9/19)
- ② 法務局に、役員の変更に伴う理事の変更登記と資産の総額変更登記を行いました。(2012/9/19)
- ③ 2011年度決算にもとづき税務申告を行い納税しました。納税額は次の通りでした。

国税	法人税	0円	(課税対象となる事業所得への課税税率22%、赤字決算のため0)
地方税	県民税	21,000円	(法人税の5%+均等割2万円+あいち森と緑づくり税均等割5%)
	事業税	0円	(所得金額の5%、赤字決算のため0)
	市民税	50,000円	(法人税の12.3%+均等割5万円)
消費税		432,500円	(2007年度より、納税義務者となりました。)

※特定非営利活動法人ではありますが、税法上の収益事業により発生した所得については課税されます。

IV 2012年度決算報告

1. 決算の概要

2012年度収支バランス

(単位 千円、端数切り捨てて表示しています)

収入の部		支出の部		収支差額	
前年度繰越金	15,123				
経常収支	会費収入	20,182	運営費	790	▲4,971
	(うち維持会費)	18,060	管理費	24,363	
	事業収入	13,906	事業費	9,641	4,265
	(うち学びと気づき支援収入)	7,669	(うち学びと気づき支援費)	3,269	
	(うち学習・研修事業収入)	4,666	(うち学習・研修事業費)	2,244	
	その他収入	785			785
当期収入計	34,874	当期支出計	34,795	79	

会費収入が20,182千円(個人会費658千円、団体会費1,320千円、賛助会費144千円、維持会費18,060千円)となり、対応する運営費・管理費の支出が25,153千円で、収支差額は▲4,971千円となりました。これを事業収入13,906千円と事業費の9,641千円の差額4,265千円で補っています。この構造は、維持会費を減額し、学びと気づき支援や、マイスターコースと組合員理事ゼミナールの受講料等の事業収入で補う構造で収支構造をつくってきたためです。その他収入も加えて、2012年度収支は79千円のプラスとすることができました。

2. 2012年度決算書

2013年度の貸借対照表・収支計算書・財産目録は、次の通りです。

2012年度貸借対照表 (単位 円)

2013年3月20日現在

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金・預金		
小口現金	119,920	
普通預金	12,079,176	
郵便振替口座	3,568,089	
	15,767,185	
未収金		1,189,870
仮払消費税		0
流動資産合計		16,957,055
2 固定資産		
什器備品		0
ソフトウェア		0
固定資産合計		0
資産合計		16,957,055
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金		1,572,296
未払法人税		68,500
未払消費税		413,100
流動負債合計		2,053,896
2 固定負債		
長期借入金		0
退職給与引当金		0
固定負債合計		0
負債合計		2,053,896
III 正財産の部		
1 期首正味財産		15,123,515
2 当期正味財産増減額		-220,356
正味財産合計		14,903,159
負債及び正味財産合計		16,957,055

2012年度収支報告 (単位 円)

2012年3月21日~2013年3月20日

	2012年度実績	2012年度予算	予算比	2011年度実績	前年比	2012年度の結果について
I・経常収支の部						
1. 会費収入	20,182,500	20,370,000	99.1%	19,884,500	101.5%	
1)個人会費	658,500	1,000,000	65.9%	693,500	95.0%	会員120人増目標に対し前年並みとなりました。
2)団体会費	1,320,000	1,150,000	114.8%	990,000	133.3%	団体会員5団体増目標のところ2団体増となりました。
3)賛助会費	144,000	160,000	90.0%	141,000	102.1%	賛助会員20人増を目標に対し前年並みとなりました。
4)維持会費	18,060,000	18,060,000	100.0%	18,060,000	100.0%	
2. 事業収入	13,856,967	13,660,000	101.4%	15,417,522	90.2%	
1)学習・研修支援事業収入	8,042,568	7,900,000	101.8%	9,378,276	85.8%	
学習と気づき支援収入	7,669,518	7,500,000	102.3%	9,070,751	84.6%	ほぼ予算通りの執行となりました。
学習・交流支援収入	373,050	400,000	93.3%	307,525	121.3%	
2)主催事業収入	5,398,395	5,200,000	103.8%	5,825,990	92.7%	
学習・研修事業収入	4,666,198	4,800,000	97.2%	5,578,102	83.7%	マイスター、理事ゼミ受講料はほぼ予算通りとなりました。
調査・研究事業収入	732,197	400,000	183.0%	247,888	295.4%	国際協同組合年記念企画の収入分が増となりました。
3)受託事業収入	142,858	140,000	102.0%	142,858	100.0%	
受託研修収入	0	0	0.0%	0	0.0%	
受託調査・研究収入	142,858	140,000	102.0%	142,858	100.0%	コープあいちからの委託です。
4)情報サービス事業収入	23,146	120,000	19.3%	70,398	32.9%	
5)研究事業準備金取崩	250,000	300,000	83.3%	0	0.0%	2012年度研究奨励助成実施分のみ取り崩します
3. その他収入	785,379	751,300	104.5%	780,849	100.6%	
1)寄付金・協賛金	672,157	650,000	103.4%	657,052	102.3%	
2)受取利息	1,366	1,300	105.1%	1,305	104.7%	
3)雑収入	111,856	100,000	111.9%	122,492	91.3%	
経常収入合計(a)	34,824,846	34,781,300	100.1%	36,082,871	96.7%	
II・経常支出の部						
1. 事業費	9,641,118	9,006,000	107.1%	9,666,798	99.7%	
1)学習・交流支援事業費	3,958,350	3,600,000	110.0%	3,972,575	99.6%	
学習と気づき支援費	3,269,382	3,000,000	109.0%	3,430,587	95.3%	
学習交流支援費	688,968	600,000	114.8%	541,988	127.1%	愛知・岐阜・三重の地域懇談会費用です。
2)主催事業費	4,642,091	4,150,000	111.9%	4,165,386	111.4%	
学習・研修事業費	2,244,662	1,850,000	121.3%	2,350,895	95.5%	理事ゼミ交流会、企画委員会等の開催が増となりました。
調査・研究事業費	2,147,429	2,000,000	107.4%	1,814,491	118.3%	国際協同組合年記念企画の支出分が増となりました。
奨励研究事業費	250,000	300,000	83.3%	0	0.0%	第3期研究奨励助成で、一件は次年度に支出となります。
3)受託事業費	0	0	0.0%	0	0.0%	
受託研修費	0	0	0.0%	0	0.0%	
受託調査・研究費	0	0	0.0%	0	0.0%	
4)情報サービス事業費	1,040,677	1,256,000	82.9%	1,528,837	68.1%	
研究センターニュース発行費	519,677	600,000	86.6%	674,503	77.0%	メール便代の一部を通信費に移しました。
研究誌・報告書制作費	365,000	500,000	73.0%	698,334	52.3%	パネル、東海交流フォーラム報告集発行費用(3冊)です。
情報システム運用費	156,000	156,000	100.0%	156,000	100.0%	ホームページ運営費です。
2. 運営費	790,766	890,000	88.9%	871,496	90.7%	
1)総会開催費	196,221	230,000	85.3%	210,163	93.4%	総会シンポジウム、議案書費用です。
2)理事会等会議費	594,545	660,000	90.1%	661,333	89.9%	理事会・常任理事会の費用です。
3. 管理費	24,363,318	24,856,000	98.0%	24,208,243	100.6%	
1)役員報酬	0	0	0.0%	0	0.0%	
2)職員給与・賞与	15,864,251	16,400,000	96.7%	16,035,028	98.9%	事務局職員給与です。
3)通勤交通費●	864,673	800,000	108.1%	799,099	108.2%	事務局通勤交通費です。
4)法定福利費●	2,199,154	2,220,000	99.1%	2,127,961	103.3%	社会保険料等の事業者負担分です。
5)厚生費●	105,429	150,000	70.3%	150,087	70.2%	健康診断費・安全運転教育費です。
6)業務委託費	2,306,489	2,200,000	104.8%	2,234,850	103.2%	事務局スタッフ等の業務委託費です。
7)委託通勤交通費●	0	0	0.0%	0	0.0%	
8)事務用品費	628,414	800,000	78.6%	823,734	76.3%	用紙代、印刷代、ゼロックスリース代等です。
9)備品費	123,573	250,000	49.4%	46,738	264.4%	パソコン1台を購入しました。
10)研修調査費●	133,225	150,000	88.8%	169,643	78.5%	事務局の研修等の費用です。
11)新聞図書費●	128,640	100,000	128.6%	93,401	137.7%	新聞・雑誌・参考資料等の図書費です。
12)広報費	140,000	100,000	140.0%	0	0.0%	研究センター紹介リーフレットの費用です。
13)通信交通費	658,752	450,000	146.4%	480,646	137.1%	ゆうメール等の代金が増加しました。
14)施設・設備利用料	640,000	640,000	100.0%	640,000	100.0%	事務所賃借料です。
15)租税公課	482,762	480,000	100.6%	525,567	91.5%	消費税、法人税です。
16)会議費	0	0	0.0%	0	0.0%	
17)渉外費	19,240	53,000	36.3%	23,620	81.5%	諸団体の会費等です。
18)その他事務費	68,716	63,000	109.1%	57,869	118.7%	銀行への振込み手数料です。
経常支出合計(b)	34,795,202	34,752,000	100.1%	34,746,537	100.1%	
経常収支差額(c)=(a)-	29,644	29,300	101.2%	1,336,334	6.1%	
III・その他資金収支の部						
特別収入	0	0	0.0%	0	0.0%	
その他資金収入合計(d)	0	0	0.0%	0	0.0%	
その他資金支出の部	0	0	0.0%	0	0.0%	
特別支出	0	0	0.0%	0	0.0%	
未払税金等繰入	0	0	0.0%	0	0.0%	
什器備品購入支出	0	0	0.0%	0	0.0%	
ソフトウェア購入支出	0	0	0.0%	0	0.0%	
その他資金支出合計(e)	0	0	0.0%	0	0.0%	
その他資金収支差額(f)=(d)-	0	0	0.0%	0	0.0%	
当期収支差額(g)=(c)+(f)	29,644	29,300	101.2%	1,336,334	6.1%	
IV・正味財産増加の部						
什器備品購入額	0	0	0.0%	0	0.0%	
ソフトウェア購入額	0	0	0.0%	0	0.0%	
正味財産増加の部 合計	0	0	0.0%	0	0.0%	
正味財産減少の部	250,000	300,000	83.3%	0	0.0%	研究事業準備金取り崩しによる減少です。
什器備品減価償却額	0	0	0.0%	0	0.0%	
ソフトウェア減価償却額	0	0	0.0%	0	0.0%	
正味財産減少の部 合計	250,000	300,000	83.3%	0	0.0%	
当期正味財産増加額	-220,356	-270,700	81.4%	1,336,334	-16.3%	
前年度繰越金	15,123,515	15,123,515	100.0%	13,787,181	109.7%	
次期繰越収支差額	14,903,159	14,852,815	100.3%	15,123,515	98.6%	

2012年度財産目録 (単位 円)

2013年3月20日現在

科目	内 訳	金 額		
I 資産の部				
1 流動資産				
現金預金 現金	現金手元有高	119,920		
普通預金	三菱東京UJF銀行	12,079,176		
郵便振替	会費振込口座	3,568,089		
			15,767,185	
未収金	東海コープ事業連合	52,500		
	京都市民生協	495,950		
	エフコープ	238,390		
	パルライン	85,130		
	コープぎふ	5,900		
	コープみえ	12,000		
	大学生協東海事業連合	300,000		
			1,189,870	
仮払消費税		0	0	
流動資産合計				16,957,055
2 固定資産	什器備品		0	
	ソフトウェア		0	
固定資産合計				0
資産合計				16,957,055
II 負債の部				
1 流動負債				
未払金	コープあいち	1,126,599		
	東海コープ事業連合	37,800		
	東海共同印刷	39,900		
	ヤマト運輸	40,095		
	理想科学	13,020		
	愛知県労働者共済生協	66,000		
	業務委託・給与	239,050		
	電話代他	9,832		
			1,572,296	
仮受消費税			0	
未払法人税	未払法人税		68,500	
未払消費税	未払消費税		413,100	
流動負債合計				2,053,896
2 固定負債				
長期借入金			0	
退職給与引当金			0	
固定負債合計				0
負債合計				2,053,896
III 正味財産				
期首正味財産			15,123,515	
当期正味財産増加額			-220,356	
正味財産合計				14,903,159
負債及び正味財産合計				16,957,055

V 監査報告 (総会当日配布)

以上、2012年度事業報告、決算報告とします。

2013年4月27日

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事	川崎 直巳	(コープぎふ理事長)
専務理事	向井 忍	(コープあいち参与)
常任理事	河原 洋之	(コープぎふ執行役員)
常任理事	仲田 伸輝	(社会福祉法人名南子どもの家前理事)
常任理事	山下 隆之	(コープみえ執行役員)
常任理事	渡邊 秀	(コープあいち執行役員)
理事	朝倉 美江	(金城学院大学人間科学部教授)
	荒井 聡	(岐阜大学応用生物科学部教授)
	井関 道夫	(元愛知学泉大学教授)
	稲嶋 保之	(コープあいち労働組合執行委員長)
	井上 庄吾	(JA愛知中央会)
	伊藤 佐記子	(コープぎふ組合員)
	大谷 光一	(全国大学生協連合会 東海ブロック事務局長)
	岡田 祐成	(社会福祉法人なごや平和福祉会理事・施設長)
	小木曾 洋司	(中京大学現代社会学部准教授)
	川元 チエ子	(コープみえ理事)
	黒川 富子	(社会福祉法人名北福祉会)
	下里 玉美	(コープあいち理事)
	武野 典子	(コープぎふ理事)
	田所 登代子	(コープあいち理事)
	田邊 準也	(東海コープ事業連合顧問)
	成瀬 幸雄	(南医療生協専務理事)
	西川 幸城	(東海コープ事業連合常務理事)
	野田 輝己	(農業経営)
	橋本 吉広	(大学非常勤講師)
	服部 ゆかり	(コープぎふ理事)
	早川 喬	(農業・農協問題研究所三重支部世話人)
	久永 直見	(愛知教育大学保健環境センター教授)
	平野 哲至	(会社コンサルタント)
	向井 清史	(名古屋市立大学大学院教授)
	山口 直子	(コープあいち組合員)
	幸松 孝太郎	(関西学院大学 都市創造研究センター 客員研究員)
	吉田 法子	(コープみえ理事)
	兼子 厚之	(研究センター事務局)
事務局長	大島 三津夫	(研究センター事務局)

第2号議案 2013年度事業計画と予算決定の件

2013年度事業計画

I. 2013年度の課題

2012年度に市民協同組織と協同組合の連帯を広げ、地域での活動の場を広げてきました。また、地域と協同の研究センターの役割は、市民協同組織と協同組合に関わって、研究する、学び合う、実践を交流する場をつくることであると考え、活動をすすめてきました。そうした中で見えてきたことは、今、人と人のつながりが崩れ、利己的な価値観が広がり、協同が厳しい状況にあるということと、そうした状況を打開しようと様々な市民協同組織と協同組合の実践が行われているということでした。2013年度は、そうした社会的な状況について発信しながら、この間見えてきた研究センターの役割、研究する、学び合う、実践を交流する場をつくっていけるよう目標を持って取り組んでいきます。

2011年の総会で確認した中期目標で、2013年度は下記のことを目標として確認しています。

- ①国際協同組合年を契機として、協同を基礎とする組織や協同組合の価値と役割について深め合った内容を基に、協同組合が取り組む運動と事業に貢献できるようになります。
- ②地域で研究センターとしての学習・交流の場をつくることのできる仕組みを持ち、時々の課題・テーマで協同と協同組合の課題について探究し情報を交流できる仕組みをつくります。
- ③協同と協同組合を支える人を育む場として適切な仕組みを持ち、広く地域・協同組合から市民の参加がある組織を目指します。
- ④これらのことを達成する中で、協同の理念・価値・役割について社会的にも認められるようになり、そのことで地域と協同の研究センターを支える仕組み、人、財務の基礎を確立します。

2013年度目標が実現できるよう、下記のことに取り組めます。

- ①2012国際協同組合年でつくってきた協同組合の連帯を基礎に、豊かな協同組合らしい価値を創り、市民協同組織と協同組合のあり方について一緒に考えます。
- ②特に時々のテーマに応える仕組みを準備し、協同組合の実践に関わって、今の「非正規雇用の広がり」「格差の広がり」等、考え合うべき内容についてその場をつくることのできるようにします。
- ③この間検討してきた協同組合を学び合える場「協同の未来塾」を、2014年度に開講できるよう準備します。
- ④協同組合に関する情報を蓄積し、必要な情報を適切に発信し、またその仕組みを支える会員組織と財務の基礎をつくります。

II. 2013年度事業計画の構成と具体的な取り組み計画

1. 協同組合の理念・役割・あり方の探究

(1) 生協の(未来の)あり方研究会

「生協の(未来の)あり方研究会刊行物」を発行(2013年6月予定)します。併せて刊行物を活用し、研究集会を開催し、これからの生協のあり方についてより深め合っていくための場を設けることができるようにします。また研究会の次の発展段階を相談し、目指すことができるようにします。

(2) 総会記念シンポジウム

5月30日(木)総会記念シンポジウムを時々のテーマに関わり学ぶ場として開催し、7月6日(土)(国際協同組合デー)には、2012国際協同組合年でのつながりの中で、今後の協同組合を考え合う企画を準備します。

(3) 第10回東海交流フォーラム

第9回東海交流フォーラムの成果と総会記念シンポジウム、市民協同組織・協同組合の成果を生かし、東海の地域での実践を交流する場として第10回東海交流フォーラムを準備し開催します。

2. 協同の主体づくり・担い手づくりと学びと気づきの支援

この間取り組んできた協同の主体づくり・担い手づくりと学びと気づきの支援に関わり、準備してきた内容を一つ一つしっかりとすすめていきます。またそうした活動を進める中で、協同組合を学ぶためのテキストづくりもできるように検討していきます。

(1) 各生協での職員を中心とした学びと気づきの場づくり支援

2012年度に引き続き、各生協の要請に応える内容で、学びと気づきの場づくりの支援活動に取り組んでいきます。

(2) 共同購入事業マイスターコース

共同購入事業マイスターコースを4年間開講してきた蓄積を基礎に、見直しを行い、より進化した内容で2013年度マイスターコースを開講していきます。

(3) 組合員理事ゼミナールの開講

2012年度改選により選出された新任組合員理事を対象として「組合員理事ゼミナール」を2012年度・2013年度の2年計画で開講しています。2013年度計画した内容を着実にすすめます。

(4) 協同の未来塾の準備

2012年度検討してきた内容を企画委員会でより深め、専門研究者の方にも協力いただき、2014年度開講を目指し、準備していきます。

3. 協同で支える領域別テーマごとの交流・地域での交流

テーマごとで研究や学びの成果を持ち寄ることができるパネルの場は、会員が日常的に関心に基づき参加し、研究センターでの成果を持ち返ることのできる貴重な場となっています。2013年度も継続しながら、さらに研究センターを支える人と力を蓄え、日常的な研究センター活動の場として、それを支えることができる人と財政の仕組みをつくっていきます。

(1) 4つの領域でのパネル

①食と農（食をささえる地域農業と食育）パネル

2012年度にげんきの郷や近藤園芸の見学を行い、今農業に関わって知れば知るほど、継続できる農業のあり方について考える必要があると相談してきました。今後も継続して実践を学ぶ場をつくりながら、地域農業の現状を専門家からも学べるよう計画します。また、今後のあり方に大きく関わるTPPに関して、学び合う場をつくることのできるようにしていきます。

また環境パネルのメンバーも参加して、第4回「原発事故と私たちの暮らし」学習交流会を6月下旬～7月頃に開催します。テーマは「原発に頼らないくらしの見直し」とし、テーマに沿った基調講演では、原発事故発生2年目でどんな問題があり、どう考えるか、くらしをどう工夫をするのか等について学び合います。

②地域福祉を支える市民協同 パネル

2012年度実施した座談会と意見交流で得た共通認識を基に、東海交流フォーラムで紹介された実践報告も重ねて、2013年度へつなげていきます。社会福祉に関わる急速な状況の変化も視野に入れながら学びを広げます。研究センターから出版される生協の（未来の）あり方研究会の成果である発行物の内容に関わって、パネルの問題意識の視点で学べるような場もつくっていきます。

③研究フォーラム職員の仕事を考える

様々な学びにつながった「生協職員の仕事を語る会」は、持ち方を工夫し、年2回の開催を計画します。また、生協を組合員と職員と一緒に上げることができ、やり甲斐がもてる仕事のあり方を考えるために、この間知ることができた事例について、さらに学ぶことができるよう、すすめ方を相談しながら調査活動にも取り組みます。

④環境（自然の環 人の輪）

2012年度取り組んだ「イヌナシの保全活動」に関わって、「イヌナシの花を見る会」を4月20日(土)を企画します。また2013年度は、7月末ごろ岐阜での原生林散策「アライダシトレッキングツアー」を計画します。また、食品残渣を活用した肥料の取り組みについて学び、今後につなげる取り組みを考えていきます。

(2) 地域懇談会

①三河地域懇談会

今までの経験を活かして、第10回三河地域懇談会を開催します。記念の企画となるよう、広く実行委員も募り、三河在住の会員が大勢参加できるように、実行委員会で検討を深めます。また2012年度の三河地域懇談会のオプション企画として取り組んだ佐久島での企画が、台風の影響で予定通り行うことができなかつたため、再度「佐久島へ行こう」企画を4月に開催します。

②三重のつどい

2012年度に引き続き、三重各地の調査活動を引き続きすすめていきます。候補として多気町にある高校生レストラン「まごの店」に行き高校生や先生の話聞いてくると、鹿肉の料理講習会で三重の獣害被害を知ること、定期的に有志でサロンを開くこと等を相談し計画していきます。

③岐阜地域懇談会

2012年度は「岐阜を知ろう、つながろう」を合い言葉に、新しいつながりをつくってきました。そうしたつながりを大切に、継続しながら引き続き会員による岐阜地域の調査をすすめます。2013年度は、住民が自分たちの手で取り組んでいる地域の活動について、さらに学んでいきます。第4回岐阜のつどいは、郡上市和良町のまちづくりについて学び、第5回岐阜のつどいは、飛騨地方にも出かけ学びたいと相談しています。

④尾張地域懇談会

コープあいちで取り組んだ地域支え合い事業の今後につなげることなど、これまで尾張地域で地域と協同の研究センターが支援して取り組んできたこと等、尾張地域での活動支援を継続し、役割を發揮していきます。

4. 会員による多様な研究センター活動の支援

会員の自主的な活動である「ものづくりの思いを語る会」「くらしを語りあう会」を引き続き支援していきます。また、第三期研究奨励助成で取り組まれている研究に関わり、2014年1月に報告が提出されるよう支援していきます。また第三期研究奨励助成での支援活動を通じ、2015年度以降に第四期研究奨励助成に取り組む準備をすすめます。

5. 協同に関わる情報の蓄積と社会的発信

研究センターからの情報の共有化、発信の改善として、NEWS・情報クリップ等を内容と発行の見直しをします。情報発信の補強として「NEWS増刊号」発行を目指します。

特設テーマの情報誌として、市民や実践家、研究者による、協同と協同組合に関する実践からの気づき学びとそれに伴う考えの交流、情報交換の場とし、協同組合に関わる組合員・職員が、読んでよかったと関心や学びを促すものにしていきます。編集委員会を構成して、まずは1回（年2、3回または季刊を目指して）の発行の検討をすすめます。

6. 研究センターの組織づくり

パネル、地域懇談会等の参加を増やししながら、また、研究センターの活動を情報発信の改善から協同組合の組合員、職員にお知らせをして関心を広め、また、協同組合の連携の中での取り組みを通じて、地域と協同の研究センター会員のお誘いを広げていきましょう。

会員加入について、下記の日標を持ち、取り組んでいきます。

会員お誘い日標 個人（正 50人・賛助 20人） 団体（正 2団体）

会員の広がりの中で、財政を支える会員組織と活動づくりをすすめます。

7. 次期中期日標の準備

2011年度に決定した第二期中期日標は、2013年度になつていたい地域と研究センターを目指すものでした。2013年度はその最終年度となります。その後の地域と協同の研究センター活動について、次期中期日標に関わる相談を2013年度はすすめて、2014年度から実施できるように準備していきます。その中で、協同組合との関係で地域と協同の研究センターはどのような役割を果たしていくかを考え、今後の活動のあり方、組織の仕組み等も検討し、次期中期日標として持つようにします。

3. 2013年度予算 (単位 円)		2013年3月21日~2014年3月20日		
	2012年度実績	2013年度予算案	2012年度比	2013年度予算の考え方
I. 経常収支の部				
1. 会費収入	20,182,500	20,360,000	100.9%	
1) 個人会費	658,500	800,000	121.5%	正会員50人増の目標とします。
2) 団体会費	1,320,000	1,350,000	102.3%	団体会員2団体増の目標とします。
3) 賛助会費	144,000	150,000	104.2%	賛助会員20人増の目標とします。
4) 維持会費	18,060,000	18,060,000	100.0%	
2. 事業収入	13,856,967	12,018,500	86.7%	
1) 学習・研修支援事業収入	8,042,568	7,000,000	87.0%	
学びと気づき支援収入	7,669,518	6,600,000	86.1%	学びと気づきの場づくり(100コマ)での予算です。
学習・交流支援収入	373,050	400,000	107.2%	地域懇談会等での収入は前年並みとします。
2) 主催事業収入	5,398,395	4,918,500	91.1%	
学習・研修事業収入	4,666,198	4,518,500	96.8%	マイスターコース、理事ゼミ受講料の収入は前年並みとします。
調査・研究事業収入	732,197	400,000	54.6%	パネル企画や東海交流フォーラムでの収入です。
3) 受託事業収入	142,858	0	0.0%	
受託研修収入	0	0	0.0%	
受託調査・研究収入	142,858	0	0.0%	
4) 情報サービス事業収入	23,146	50,000	216.0%	書籍販売での収入です。
5) 研究事業準備金取崩	250,000	50,000	20.0%	2012年度研究奨励助成での取り崩し未執行の予算です。
3. その他収入	785,379	781,300	99.5%	
1) 寄付金・協賛金	672,157	670,000	99.7%	
2) 受取利息	1,366	1,300	95.2%	
3) 雑収入	111,856	110,000	98.3%	用紙代、印刷代等での収入です。
経常収入合計(a)	34,824,846	33,159,800	95.2%	
II. 経常支出の部				
1. 事業費	9,641,118	8,181,000	84.9%	事業費は全般的に出費を抑えます。
1) 学習・交流支援事業費	3,958,350	3,410,000	86.1%	
学びと気づき支援費	3,269,382	2,810,000	85.9%	学びと気づきの場づくり(100コマ)での予算です。
学習交流支援費	688,968	600,000	87.1%	愛知・岐阜・三重の地域懇談会等の費用です。
2) 主催事業費	4,642,091	3,750,000	80.8%	
学習・研修事業費	2,244,662	1,900,000	84.6%	
調査・研究事業費	2,147,429	1,800,000	83.8%	パネル、研究会、記念企画、東海交流フォーラム等の費用です。
奨励研究事業費	250,000	50,000	20.0%	2012年度研究奨励助成での未執行分の予算です。
3) 受託事業費	0	0	0.0%	
受託研修費	0	0	0.0%	
受託調査・研究費	0	0	0.0%	
4) 情報サービス事業費	1,040,677	1,021,000	98.1%	
研究センターニュース発行費	519,677	500,000	96.2%	メール便代の一部を通信費に移した予算とします。
研究誌・報告書制作費	365,000	365,000	100.0%	パネル、東海交流フォーラム等の報告集を発行する費用です。
情報システム運用費	156,000	156,000	100.0%	ホームページ運営費です。
2. 運営費	790,766	830,000	105.0%	
1) 総会開催費	196,221	230,000	117.2%	総会及びシンポジウム開催のための費用です。
2) 理事会等会議費	594,545	600,000	100.9%	理事会・常任理事会開催のための費用です。
3. 管理費	24,363,318	24,088,600	98.9%	
1) 役員報酬	0	0	0.0%	
2) 職員給与・賞与	15,864,251	15,900,000	100.2%	事務局職員給与(コープあいちからの出向者+アルバイト)です。
3) 通勤交通費	864,673	860,000	99.5%	事務局通勤交通費(アルバイト契約での交通費を含む)です。
4) 法定福利費	2,199,154	2,200,000	100.0%	社会保険料等の事業者負担分です。
5) 厚生費	105,429	150,000	142.3%	健康診断費・安全運転教育費等の費用です。
6) 業務委託費	2,306,489	2,200,000	95.4%	事務局スタッフ等の業務委託費です。
7) 委託通勤交通費	0	0	0.0%	
8) 事務用品費	628,414	630,000	100.3%	用紙代、印刷代、ゼロックスリース代等の費用です。
9) 備品費	123,573	130,000	105.2%	パソコンを1台購入する予定です。
10) 研修調査費	133,225	130,000	97.6%	事務局の研修費用です。
11) 新聞図書費	128,640	100,000	77.7%	新聞・雑誌・参考資料等の図書費です。
12) 広報費	140,000	10,000	7.1%	
13) 通信交通費	658,752	550,000	83.5%	電話代、郵送料、交通費等の費用です。
14) 施設・設備利用料	640,000	640,000	100.0%	事務所賃借料です。
15) 租税公課	482,762	467,600	96.9%	2012年度の事業収入は減少するため、租税も減額で予算化します。
16) 会議費	0	0	0.0%	
17) 渉外費	19,240	53,000	275.5%	諸会費です。
18) その他事務費	68,716	68,000	99.0%	銀行等への振込み手数料です。
経常支出合計(b)	34,795,202	33,099,600	95.1%	
経常収支差額(c)=(a)-(b)	29,644	60,200	203.1%	
III. その他資金収入の部				
特別収入	0	0	0.0%	
その他資金収入合計(d)	0	0	0.0%	
その他資金支出の部				
特別支出	0	0	0.0%	
未払税金等繰入	0	0	0.0%	
什器備品購入支出	0	0	0.0%	
ソフトウェア購入支出	0	0	0.0%	
その他資金支出合計(e)	0	0	0.0%	
その他資金収支差額(f)=(d)-(e)	0	0	0.0%	
当期収支差額(g)=(c)+(f)	29,644	60,200	203.1%	
IV. 正味財産増加の部				
什器備品購入額	0	0	0.0%	
ソフトウェア購入額	0	0	0.0%	
正味財産増加の部 合計	0	0	0.0%	
正味財産減少の部	250,000	50,000	20.0%	2012年度研究奨励助成での取り崩し未執行分を予算計上します。
什器備品減価償却額	0	0	0.0%	
ソフトウェア減価償却額	0	0	0.0%	
正味財産減少の部 合計	250,000	0	0.0%	
当期正味財産増加額	-220,356	10,200	-4.6%	
前年度繰越金	15,123,515	14,903,159	98.5%	
次期繰越収支差額	14,903,159	14,913,359	100.1%	

第3号議案 役員の一部補欠選出の件（案）

役員 の 辞任 に 伴い、定款第16条にもとづき役員 の 補欠選出 を 行い ます。補欠選出 及び 補充選出 の 選出区 及び 定数 は、次 の 通り です。

補欠選出理事	
三重地域	1 名
合計	1 名

補欠選出にもとづき就任した役員 の 任期 は、2014年 に 行 う 改選 までの 前任者 の 残存期間 です。

今回 の 補欠選出 は、三重地域 での 団体会員 を 代表する 理事 の 辞任 に 伴う 選出 です ので、その 選出 枠内 での 補欠選出 となります。

2013年 通常総会 役員選出 管理委員会

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター2012年度通常総会議事録

1. 日 時 2012年7月7日(土) 開会 10時30分 閉会 12時15分

2. 会 場 JAあいちビル14階大会議室

3. 出席者(議案採決時の出席数)

<内訳>	出席者	実出席	委任	書面表決	正会員数	出席率
個人正会員	167	74	1	92	235	71.0%
団体正会員	15	5	0	10	17	88.2%
	182	79	1	102	252	72.2%

4. 審議事項

- (1) 第1号議案 2011年度事業報告と決算承認の件
- (2) 第2号議案 2012年度事業計画と予算決定の件
- (3) 第3号議案 理事・監事の選出及び顧問委嘱承認の件

5. 議事経過の概略及び議決の結果

(1) 開会

定刻となり司会者の磯村隆樹常任理事が、総会への出席者が開会時点で170名(実出席68名、書面表決者102名)となり、7月7日現在の正会員252名(個人正会員235名、団体正会員17名)の過半数127名に達していることを報告し、定款29条に基づき、2012年度通常総会を開会することを宣言した。

(2) 議長選出及び議事録署名人の選任と書記の任命

司会者が議長の選出方法について諮り、理事会から推薦することにつき異議なく承認されたので、理事会が推薦した八田淳理事、中島啓美理事を紹介し、満場一致をもってこれを承認し、本人も了解して議長の任についた。

議長が議事録署名人に河合智子会員、野田妙子会員を提案し、異議なく選任された。つづいて議長は書記に研究センター事務局の伊藤小友美会員を任命した。

(3) 代表理事あいさつ

総会の開会にあたり、川崎直巳代表理事が、次のようなあいさつを行った。

おはようございます。朝早くから、地域と協同の研究センターの総会に参加いただき、ありがとうございます。今日、午後は、3県の協同組合が共同して2012国際協同組合年を記念してシンポジウムを開催します。併せて、協同組合をアピールしようと、共同で中日新聞に宣伝広告を出しました。今年の総会は、2012国際協同組合年として、協同組合の可能性について検討していただき、確かな一歩をすすめられる総会になればと思います。

1年ほど前から、2012国際協同組合年に、どういう取り組みを東海ですすめることができるか、みなさんのお知恵をお借りし、研究センター理事会でも議論を重ね、東海地域の協同組合が集まって、検討を積み重ねてまいりました。その結果、JAのみなさんの大きなお力添えで、午後からの記念シンポジウムが準備でき、開催できることをうれしく思います。3県の協同組合が共同した取り組みは、初めての企画だと思います。今後の発展に期待したいと思っております。

月刊JAの7月号に、福井県立大学の北川先生が「協同組合の未来に向かって」というテーマでメッセージを発信しておられます。その中で、世の中で、協同や共生ということについて、期待が高まっているということは共通の認識であると思いますが、協同組合が大事な組織ということでイコールにはなっていないと提起しておられます。協同、共生について期待があり、協同組合が、その期待に応える組織として認知されているか、役割を果たしているかを考えないといけないということです。そんな取り組みがすすめられることを期待し、開会の挨拶とさせていただきます。

(4) 議案の審議及び結果

向井忍専務理事から、議案書に基づき第1号議案2011年度事業報告と決算、第2号議案2012年度事業計

画と予算、第3号議案における顧問委嘱承認について提案があった。また監事を代表して吉田幸司監事が監査報告書に基づき監査の報告をした。

次に理事会からの議案提案に基づき、会員からの質疑、意見発表が行われた。

原勝行会員：岐阜地域懇談会がやっと動き出しました。中津川の農業小学校を訪ねることから始まり、石徹白の小水力発電と地域再生の取り組みについての見学会を計画しています。石徹白では、自然エネルギーを使った小水力発電の実験がすすめられており、2～3年のうちに、石徹白という地域全体の電力をまかなうような計画が、県の計画としてすすめられようとしています。8月17日の土曜日に、コープぎふ本部に9時集合で、その石徹白に行ってきます。以前から、コープぎふにいる少数の研究センター会員で「生協の今とこれからの考える自主研究会」をしてきました。来年の東海交流フォーラムに向け第6集をまとめ、一旦区切りをしたいと思っています。

岡本一朗会員：三重県の国際協同組合年の取り組みして7月14日、来週の土曜日に、三重の津で、「2012国際協同組合年フェスティバル in みえ」という企画を持ちます。昨年末に、三重県の協同組合組織4つで三重県実行委員会を立ち上げ、3月にシンポジウムを行い、各協同組合の会長・専務理事でパネルディスカッションを行いました。今回は、広く市民に協同組合を知らせることを目的に、各協同組合を知らせるブースを設け、海産物、農産物、生協商品の販売をし、ステージ企画もあります。また、平和市長会議には、三重県は29自治体のうち、19自治体が入っていました。未加盟の町を訪問し、加入を呼びかけ、今3町に入ってもらいました。

野田妙子会員：三河地域懇談会は、三河の地域で開催し、学び語り合う会として定着してきました。これまで新城、田原、豊田と開催してきて、今年は、9月29日に蒲郡商工会議所で行います。三河湾の防災に関わって、地域での備え、くらしのあり方について考え合いたいと準備しています。講師は青木伸一先生です。「防災・減災のために」をテーマに話をさせていただきます。また、蒲郡市の防災計画についてお話を聞き、東北の支援に参加した組合員さんの報告等させていただきます。オプション企画も、宿泊と翌日の交流企画で、今年は佐久島に渡ります。

津坂賢一会員：ワーカーズコープに所属し、地域福祉を支える市民協同パネルに参加しています。ワーカーズコープは労働者協同組合です。失業者や職のない方々の仕事を協同でつくりだし、働きます。東海地方の仕事は、指定管理者制度での行政からの仕事を、期間が2年・4年という中でやっています。東海では、現在の仕事は限られていますので、地域に根を張った事業をつくりだしたいと相談しています。実際に働く者には、ワーカーズコープがあり、地域の中に困ったことがあり、その担い手は誰か、どうするのか、手段として協同、協同組合があると思います。

山口直子会員：食と農と環境パネル合同で、「原発事故と私たちのくらし」連続学習交流会を企画してきました。1回目は、9月28日に井関先生・斎藤先生に放射能、食品の現状について話をいただき、基礎的な理解ができました。2回目は、2月4日に安斎育郎先生に講演をいただきました。放射線は被爆しないにこしたことはない、どうして子どもを重視するのか、私たちはどう向き合うのかを楽しくお話いただきました。3回目は、8月9日に開催します。「人は100wで生きられる」「日本はエネルギー先進国だった」「エネルギー問題は人の生き方」等を名古屋大学の高野雅夫先生にお話いただきます。

堀正子会員：「研究フォーラム職員の仕事を考える」の世話人です。共同購入事業における地域担当者の仕事について考え合い、今年度は、9月4日に定時職員4名とリーダーの方に語りあってもらいました。「組合員さんは共に生協をつくる方」という言葉が印象に残りました。1月には、商品や生協職員のことを組合員さんに語ってもらいました。「安全安心って何」「生協に対する信頼って何」と聞いた時、「なんとなく」と答えられ、大切なキーワードだと思いました。9月9日には「私のくらしの中の生協商品2」を開催します。

小木曾洋司会員：生協の（未来の）あり方研究会の座長をしています。来年早々に本を出版する予定です。最近の研究会では、それぞれの問題意識と、生協がどういう役割と位置づけを持つべきか、報告し合い検討しています。地域と協同の研究センターが少しでも、単に東海地域だけでなく、日本の協同組合に向け情報発信できるようにがんばっています。

樽松佐一会員：研究センターが設立された時の理事で、労働組合として参加してきました。今、若者や子供の貧困は、避けておれない時代です。若者の2人に1人は、非正規雇用です。来年からは年金が繰り延べされますので、無収入の家庭が増えていきます。貧困問題について真っ正面から取り組まないといけないと思います。また、原発の取り組みは、たくさん参加され、お母さんたちには、託児所が必要です。100人、200人の集会で20人くらい赤ちゃんが来ます。こういうエネルギーを生協につなげる必要があります。

橋本直行会員：環境パネルの世話人をしています。コープみえでは三重県多度町のイヌナシ保全活動をしています。

伊勢湾沿いに生息し、マメナシと一般的に呼ばれている植物です。多度町ではイヌナシと呼ばれています。多度町には45本あり、全国でも唯一、自然交配が可能な地域です。放置されていましたが、下草刈りをし、実を付けるようになりました。イヌナシは、2010年に国の天然記念物に指定され、地域だけのものにせず、東海の人みんなで、守っていけるといいと思います。

前澤このみ会員：愛知県の東のはずれの山から来ました。「NPO法人てほへ」は、コープあいち新城センターと連動し、J Sサポーターとして生協商品を届ける活動や、空き家を借りて人の集まる場をつくり、耕作放棄地の畑で野菜をつくること等を行っています。「てほへ」の会員になっていただき、「志多ら」という和太鼓チームがこの5月から全国ツアーでまわっていますので、お近くへ参りましたら、ぜひ見ていただきたいと思います。

発言を受け、向井忍専務理事より理事会としてのまとめが行われた。

10名から発言いただきました。それぞれの報告は貴重で、研究センターで東海の様々な関係者が一つに集まって共有できるテーマであったと思います。2012国際協同組合年のスローガンは「協同組合がよりよい社会を築きます」と協同組合が主語になっています。協同組合が地域・協同にどう関わるかは、大事なテーマです。しかし、協同組合というポジションでがんばるだけではだめだと思います。地域の中でいかに協同できるか、地域の問題に参加しながら、困ったテーマがあり、ネットワークがあり、次代を担う若者の貧困問題があり、若いお母さんのエネルギーがあります。それぞれみなさんが、主体に参加できる組織かどうかは、大事なテーマだと思います。東北から避難しておられる若いお母さんは、健康問題で、甲状腺検査をすると、子供さんに嚢胞があり、思いは切実です。原発の取り組みにも参加され、活躍されています。そういった経験から、支援と支援されるという関係ではだめということを感じています。当事者が自分たちの思いで発信し、くらしの思いでつながるからこそ生命力があります。「協同っていいかも」を、どんなふうに「協同組合っていいね」にするか、考え合っていければと思います。

研究センターへの加入も、自分自身の気持ちで加入し、活用しつつ、お互い生きている関係を確認なものにする。それに貢献できる地域と協同の研究センターであればいいと思います。

議案の採決をよろしくお願ひします。

以上をもって議長が討論を終え、採決に入ることを宣言した。

第3号議案の理事・監事の選出について、役員選出管理委員の飯村初美理事から、第6回理事会で地域ごとの定数を決め、立候補受付の告示をしたところ、理事会からの推薦者として35名の理事立候補と2名の監事立候補があったと報告された。続いて役員選考委員の伊藤伸子会員から、候補者名簿に基づき立候補者の紹介があり、投票を行い、過半数の得票をもって選出されたものとする選出方法の説明があり、投票を行った。

投票の結果、役員選出管理委員が、候補者全員が過半数の支持を得て理事及び監事に選出されたことを宣言した。次の者が選出された理事・監事である。○印の者は新任の理事・監事である。

- | | | | | | |
|----|--------|--------|---------|---------|---------|
| 理事 | 朝倉 美江 | 井関 道夫 | 荒井 聡 | 伊藤 佐記子 | ○稲嶋 保之 |
| | ○井上 庄吾 | 大島 三津夫 | 大谷 光一 | 岡田 祐成 | 小木曾 洋司 |
| | 兼子 厚之 | 川崎 直巳 | 河原 洋之 | ○川元 チエ子 | ○黒川 富子 |
| | ○下里 玉美 | ○武野 典子 | ○田所 登代子 | 田邊 準也 | 仲田 伸輝 |
| | 成瀬 幸雄 | ○西川 幸城 | 野田 輝己 | 橋本 吉広 | ○服部 ゆかり |
| | ○早川 喬 | 久永 直見 | 平野 哲至 | ○向井 清史 | 向井 忍 |
| | 山口 直子 | 山下 隆之 | 幸松 孝太郎 | ○吉田 法子 | ○渡邊 秀 |
| | | | | | 以上 35名 |
| 監事 | 林 麗子 | 中山 好治 | | | 以上 2名 |

向井専務理事より提案のあった顧問の委嘱については、拍手をもって承認された。次の者が顧問である。

- | | | | | | |
|----|-------|------|-------|-------|-------|
| 顧問 | 有本 信昭 | 高橋 正 | 丹生 久吉 | 野原 敏雄 | 中嶋 好夫 |
| | 水野 隼人 | | | | 以上 6名 |

議長が第1号議案、第2号議案について、それぞれ挙手で採決を行い、第1号、第2号については過半数の賛成で可決されたことを宣告した。採決結果は次の通りであった。

第1号議案 2011年度事業報告と決算承認の件 反対0 保留0 賛成174で承認

第2号議案 2012年度事業計画と予算決定の件 反対0 保留1 賛成173で決定
すべての議案の議決が終了したことを議長が宣言し、議長を退任した。司会の河原洋之常任理事が、通常総会の閉会をつげ、12時15分閉会した。

上記の議事を明確にするため、ここに本議事録を作成し、議長及び議事録署名人において、次に署名押印する。

2012年7月7日

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター2012年度通常総会

議長 八田 淳 印

議長 中島 啓美 印

議事録署名人 河合 智子 印

議事録署名人 野田 妙子 印

研究センターニュース特別号

特集 **2013年度通常総会議案**

(総会開催日 2013年5月30日)

発行日 2013年5月10日

発行所 特定非営利活動法人
地域と協同の研究センター
代表理事 川崎直巳

〒464-0824

名古屋市千種区稲舟通1-39

電話 052-781-8280 Fax 052-781-8315